

P 1. 海洋深層水の利活用商品の現状 2022

○柴田雄次・鷺足恭子・山田勝久

(海洋深層水利用学会・利用促進委員会)

【目的】

最近の社会情勢の急激な変化から、持続可能な自然エネルギー資源が大きな注目を集めている。これまでも再生可能資源の一つとして類別されてきた海洋深層水（DSW）であるが、そこにはエネルギーだけでなく人類に役立つ多様な資源が含まれているという他の再生エネルギーとは一線を画する大きな特徴がある。本研究では、こうした DSW の利活用の現状について調査し、得られた結果を踏まえて今後の利活用の可能性について展望することを目的とした。

【方法】

海洋深層水の各取水地における利活用実態を調べるにあたり、Google が提供する検索サービス Google scholar を用いた。検索にあたっては、“海洋深層水”と“食品”、“菓子”、“飲料水”、“水産物”、“農産物”、“調味料”、“干物”、“酒類”、“化粧品”、“ペット用品”、“雑貨”の 11 の検索キーワードで検索してヒットした DSW 利活用製品について分類して整理した。調査期間は 2022 年 7 月 1 日から 28 日までのおよそ 1 ヶ月間とした。なお、本調査では利便性が高い DSW の利活用を対象としたため、エネルギー分野および医療分野の利活用については対象から除外した。

【結果および考察】

上述の方法でヒットした DSW 利活用製品は、全 411 アイテムであった。なお飲料水のように同一製品で容量が相違する製品については、1 アイテムとして 1 つにまとめて整理した。その結果を

下表に示す。現時点では食品が DSW 利活用の主要な用途であることがわかる。次いで化粧品、調味料、飲料水となったが、化粧品と飲料水は限られた企業による利活用であった。なお調味料の主

	分類	アイテム数	占有率 (%)
A	食品	134	32.6
B	化粧品	70	17.0
C	調味料	64	15.6
D	飲料水	61	14.8
E	菓子	45	10.9
F	酒類	15	3.6
G	水産物	9	2.2
H	ペット用品	7	1.7
I	農産物	3	0.7
J	肥料	2	0.5
K	衣料	1	0.2
合計		411	100.0

体は食塩であり、概ね各取水地に製品が存在した。菓子や酒類、水産物、農産物などは、各地域の特産品として紐づけられた DSW の利活用が多く、地域特性が上手く創出されていた。未だ数少ないもののペット用品への利活用は、今後の社会の変化に先駆けた DSW の新しい利活用分野として注目される。しかし現在、DSW の主要な利活用対象である食品でさえ、その利活用の意義が消費者や利活用にさえ十分浸透しておらず、現在の DSW 利活用促進に影を落としている。しかし当学会の研究発表や論文誌「海洋深層水研究」の中には、既にこれらの利活用に対する客観的な意義を示す知見が含まれている可能性がある。それらの情報を収集して利用分野毎に分類・整理して DSW 利活用の意義を広く周知することができれば、将来の利活用促進につながる可能性があると思われ、これは今後の課題として取り組みたい。